

申請先: 財団法人全国地域情報化推進協会 事務局

「PF通信(PF通信機能)」製品 PF準拠確認チェックリスト

APPLIC 登録番号:  ★APPLICで記載

※赤字部分は、V2.5からV2.6の変更箇所を示す。

(1) 対象標準とバージョン

APPLIC-0002-2011  
・プラットフォーム通信標準仕様V2.2 ・アーキテクチャ標準仕様V2.2

(2) PF準拠確認対象製品やシステムの情報と連絡先

(a) 申請日(西暦年月日):

(b) 申請区分(新規、修正、破棄):

(c) 申請者  
 団体名:  ★識別キー項目1  
 団体のURL:  (識別キー項目4つでユニークになるように申請者が指定する)  
 APPLIC会員番号:

(d) 製品情報  
 製品説明のURL:  ★識別キー項目2  
 代表製品名:   
 複数製品で構成する場合追記:   
 複数製品で構成する場合追記:   
 複数製品で構成する場合追記:   
 製品識別情報(バージョン等):  ★識別キー項目3  
 リリース日(予定)(西暦月日):   
 対応OS:

(3) PF準拠確認チェック項目(準拠ルール)

製品を申請する対象に「○」(★識別キー項目4)⇒

確認欄への記入: ◎:対応、○:制約のあるもの(制約がある場合は備考欄に記載する)

番号	準拠ルール (番号(CS-RXXXX))は、サービス基盤標準書に記載のある関連準拠ルールの番号)	必須/ 選択	サイト内/ 外/共 通	V1.0 対応	PF対応のSOAPミ ドルウェア製品申請		サイト内のPF通信 製品申請		サイト内・外対応の PF通信製品申請	
					製品・シ ステム 確認欄	APPLIC 確認欄	製品・シ ステム 確認欄	APPLIC 確認欄	製品・シ ステム 確認欄	APPLIC 確認欄
1 【ミドルウェアの要件】プラットフォーム通信機能(PF通信機能)										
1-1	HTTP通信(IPv4, HTTP1.1)を行えること(CS-R020001, CS-R020002)	必須	共通	V1.0	◎	○	◎	○	◎	○
1-2	SOAP通信(SOAP1.1, document/literal, WS-トランスポートプロファイル1.0)を行えること(CS-R020003, CS-R020004)	必須	共通	V1.0	◎	○	◎	○	◎	○
1-3	サイト内における通信セキュリティを実現できること									
1-3-1	SSL3.0(TLS1.0)のサーバ認証が利用可能であること(CS-R050001)	選択	サイト内	V1.0	◎		◎			
1-3-2	SSL3.0(TLS1.0)のクライアント認証が利用可能であること(CS-R050001)	選択	サイト内	V1.0	◎		◎			
1-3-3	HTTPベース認証が利用可能であること(CS-R050001)	選択	サイト内	V1.0	◎		◎		◎	
1-3-4	SSL3.0(TLS1.0)による通信路暗号が利用可能であること(CS-R050002)	選択	サイト内	V1.0	◎		◎			
1-4	サイト間における通信セキュリティを実現できること	必須	サイト間						◎	○
1-4-1	SSL3.0(TLS1.0)のサーバ認証が利用可能であること(CS-R050001)	必須	サイト間						◎	
1-4-2	SSL3.0(TLS1.0)のクライアント認証が利用可能であること(CS-R050001)	必須	サイト間						◎	
1-4-3	SSL3.0(TLS1.0)による通信路暗号が利用可能であること(CS-R050002)	必須	サイト間						◎	
1-5	添付ファイルのサポートができること(CS-R020006)	選択	共通		◎		◎		◎	
1-5-1	SOAP Messages with Attachments を利用可能であること(CS-R020007)	条件付き 必須(※)	共通		○		○		○	
1-6	異常系処理に対応できること									
1-6-1	メッセージ送信側のSOAP処理系は、TCP/IP, HTTPレベルで検知した障害を、MEP実行系を持つ上位アプリケーションに通知できること(CS-R060005)	必須	共通		◎	○	◎	○	◎	○
2 【サービス基盤の要件】プラットフォーム通信機能(PF通信機能)										
2-1	標準仕様書で定義するXMLインスタンスの形式に対応できること(CS-R032001)	必須	共通	V1.0			◎	○	◎	○
2-2	標準仕様書で定義するサービスインタフェース定義に対応できること	必須	共通	V1.0			◎	○	◎	○
2-2-1	PF準拠のWSDL定義に対応するサービスインタフェースを提供できること(CS-R032003)	必須	共通	V1.0			◎		◎	
2-2-2	PF準拠のWSDL定義に対応し公開されるサービスを利用できること(CS-R032003)	必須	共通	V1.0			◎		◎	
2-3	標準仕様書で定義する電子封筒形式のメッセージを交換できること(CS-R020005)	必須	共通				◎	○	◎	○
2-4	標準仕様書で定義する添付ファイルの形式に対応できること(CS-R020006)	選択	共通				◎		◎	
2-4-1	メッセージ本体格納型および添付型で添付ファイルを交換できること(CS-R020007)	条件付き 必須(※)	共通				◎		◎	
2-5	標準仕様書で定義するデータ交換システムパターンに対応できること(CS-R020008, CS-R020010)	選択	共通				◎		◎	
2-5-1	データ交換システムパターンをサポートする場合(CS-R020008, [Type1], [Type2], [Type3], [Type4], [Type5]のどれかをサポートしなければならない。)(CS-R020009)	条件付き 必須(※)	サイト内				◎		◎	
2-5-2	データ交換システムパターンをサポートする場合(CS-R020010, [Type1], [Type2], [Type4]の全てを使用できること。)(CS-R020011)	条件付き 必須(※)	サイト間						◎	
2-6	標準仕様書で定義するメッセージ交換パターンと異常系処理に対応できること	必須	共通				◎	○	◎	○
2-6-1	メッセージ交換パターンとして、「リクエスト型受領Ackあり」「リクエスト-レスポンス同期型レスポンス」「リクエスト-レスポンス型受領Ack+非同同期型レスポンス」の3つのパターンを利用できること(CS-R060001~CS-R060004)	必須	共通				◎		◎	
2-6-2	メッセージ交換パターン処理系にて、障害を検知した場合、標準仕様書で定義する異常系処理を行えること(CS-R060006, CS-R060007, CS-R060009)	必須	共通				◎		◎	

※「条件付き必須」とは、すぐ上の準拠ルール(選択)を対応とする場合、当該ルールへの対応が必須となることを示す

備考欄(前提事項や制限事項)

・Windows Azure Platform の実体は Windows 2008 SP2 / .NET Framework 4.0 である。2011/01/01現在。  
 ・DIME, MTOMであれば添付ファイルをサポート可能。SwA仕様の場合には、SwAにXOPを適用し、XMLInfosetの概念を導入したものと解釈